福野地域 会議録

件名	福野地域提言実現検討組織　人づくりグループ　第２回会議		
日時	令和元年 8 月 26 日（月）19 時～21 時	場　所	福野庁舎２階　２０１会議室
出席者	人づくりグループ メンバー：4 名　、地方創生推進課：1 名		
内容	・今後の取組内容について		
概要	◆浦井リーダー挨拶 〇前回は６月に、提言実現に向けた今年度の活動方針を決めたが、いろいろと忙しく、随分日が空いてしまったので、今回が改めての第１回目と言えるだろう。今年度は、郷土愛を育む、あるいは、まちづくりに興味を持ってもらえるような人材育成のためのコンソーシアム（協議会）設立に向けて検討を進めたいと考えている。学校や各種団体との緩やかなネットワークになればと思っているが、どちらも年度単位で動いているので、今日は、次年度に向けた動き方の検討が出来れば良いと思っている。また、ゴールのイメージを皆で共有したいと思っている。 ◆本日配布資料の説明（事務局から） ◆今後の取組内容について （〇…浦井リーダーの発言、●…メンバーの発言、→…事務局の発言） 〇これまでの検討会議では、人づくり、まちづくり、郷土愛をテーマに高校生を対象にどんなことが出来るかということを検討し、提言した。小・中学生は、既に学校でふるさと教育として取り組んでいるので、敢えて高校生だけを対象としたものである。高校生がアイデア出しをして、そのアイデアを民間企業が実現する、というような事例も県内にはある。福野高校や福光高校でそういうことが出来そうかなと思っている。 ●まずは、どんな方向性で行くか、ではないだろうか。これによって関わる人が変わってくるから、重要なポイントと考える。 〇これからのまちづくりに、大人だけでなく、子どもたちも関わることが自然になれば良い、という思いを提言に盛り込んだ。地域と高校とのつながりが大事だと思っている。 ●検討会議では高校生にアンケートを行ったが、その結果に基づいて、まちづくりを子どもたちにどのように関わりを持ってもらうかというところまでは進められなかった。 ●アンケートを実施したことが大きな一歩。 〇まちの良いところだけでは暮らせない。まちの悪い点も踏まえた日々の暮らしをまちづくりに活かさないとダメだろう。 ●どういう人をつくるか。福野に戻ってきたい人や福野に住みたい人になるだろうが、小中高生とどのように関わり、またそれをどのように伝えていくか。 〇福野高校は、砺波や高岡などの市外からの通学生が多いから、アンケートを取っても、どうしても今住んでいる所との比較になってしまい、前向きな意見が少ない。そう考えると、福野の良い点を高校生にどう植え付けていくかが課題だろうか。 ●都会への憧れもあるだろう。例えば、進学で都会へ行くのはその現れかと。 ●進学で都会に行くとしても、進学の目的が明確でないと親としても応援出来ないのが正直なところである。と言っても、進学にしても就職にしても、最終的には子どもが行き先を決めるのだが。 〇子どもたちに、まちづくりについて具体的に取組んだ事が実現するという経験をさせてあげたいと思っている。大人だけでなく、子どももまちづくりを実践するイメージ。 ●「地元が好き」と「地元に住む」は必ずしも同じではない。 〇検討会議では、リノベーションスクールに高校生を巻き込むことも検討されていた。 ●「小さくても、良い会社」というのが地域には必要だと思っている。例えば、利益が上がっている会社とか、労働環境の良い会社とか、社員が働きやすい会社とか。親御さんたちに、どうやって会社の良さを上手く伝えられないのがネックであり、またその仕組みがない。 〇元気な地方には、元々持っている地域の良さという魅力がある。そんな魅力のある地方には、若い人が中心にやって来る。元々持っている地域の良さを活かした何かが出来れば良いのだが。 →福野の他のグループでも話していた事だが、福野には潜在的な魅力があるから、福野で宅地開発すると瞬く間に売切れてしまう。その潜在的な魅力を突き詰めて、活かすことが出来ないだろうか？ ●福野の魅力はコンパクトシティであることだと思う。約１㎞圏内に、小学校や保育園、		

	買物など必要最低限の日常的な機能が揃っている。 〇地縁も大事だと思う。地元につながりのある人は、市内で転居することはあっても、市外へ転出はしない。 ●30 年程前くらいになるだろうか、自分たちが子どもの頃は、砺波や高岡への買物は特別なことであった。それが、地域内で日常的な買物が完結しなくなったことで消費エリアが拡大し、特別な買物先であった砺波や高岡が日常的な買物をするエリアとなった。 ●いかに、地域の人が自分たちのその地域を利用するかが重要になってくるのではないか。この普段の生活をまちづくりにどのようにつなげていくか。親の消費行動により、子どもの消費行動の範囲も少なからず影響を受けているように見受ける。地域内で上手くお金が循環するような仕組みになると良いのだが。 〇子育て世代の親御さんたちに、いかにして福野の魅力を感じてもらうか。子ども以上に、大人が、住んでいる地域に興味を持つ必要があるように思う。 ●「子育ては地域で」という話を学校から聞いたことがある。地域と学校のつながりも大切だし、地域と家庭とのつながりも大切であると思う。 〇例えば、子どもの世代ごとにまちづくりサークルのようなものを新設して、そのバックアップをコンソーシアム化出来れば良いと思う。中学校や高校などで、まちづくりについていろいろと提案されているが、それを実現させることを経験させてあげたいと思っていて、その過程が仕組みとなってほしい。 ●住んでいる場所を活かしたまちづくりをするためには、その場所のルーツを知る必要があると思う。「その土地の歴史を知らずしてまちづくりを語れない」。 〇歴史を知るということはなかなかコアな話なので、興味を持ってもらえるかどうかは難しいところ。 ●歴史については、深くなくても良いから、広く浅く、たくさんの事柄について知ることが出来れば良いのではないだろうか。 ●まちづくりサークルがその地域を学ぶ場になれば良いということになるか。 〇小さい事から提案し、それを実現していくことで、自分事になるのではないか？ ●いきなり組織から固めても、まちづくりは上手くいかない。例えば、子どもと一緒に参加する体験会のような事を開催して、まずは地域の事に興味を持ってもらう。そこから、地域を知る勉強会につなげて、それがまちづくりに発展していくような流れが理想的。わざわざ “まちづくり”と謳う必要はない。 ●「入ってみたら意外と楽しいね」というものだと、後々、人が人を呼ぶことにつながる。誰でも参加出来るような地域のサークルが作れたらと良いと思う。 〇今回は、主に意見交換や情報共有が出来て、課題も見えてきたので、次回は、課題に向けた具体的な取組みを検討するということで良いか？高山市「飛騨ジモト大学」、島根県津和野町「大人と子どもの学級会」、福岡県福津市「津屋崎ブランチ」など、全国の先進事例を参考にしながら、今後の検討を進めていきたい。 ●（全員）異議なし ◆次回会議 日時…令和元年９月１７日（火）午後７時３０分から 場所…福野庁舎２階　２０１会議室 内容…具体的な取組内容の検討

福野地域提言実現検討会議
人づくりグループ 第2回 R元.8.26(月)

提言

人づくり　まちづくり　郷土愛

○どんな方向性で行くか？

・日々の暮らしをまちづくりに活かすべき

・元々持っている地域の良さを活かした何かができれば良い。

↓

福野の魅力はコンパクトシティ

○どういう人をつくるか？

・「まちづくりについて具体的に取組んだことが実現する」という経験を子どもたちにもさせてあげたい

↓

大人も子どももまちづくりを実践するイメージ

・地域の人が自分たちのその地域をどのように利用するか　重要

Ex. 地域内で、上手くお金が循環するような仕組みになると良い

・子育て世代の親御さんたちに、福野の魅力をどのようにして感じてもらうか？

子ども以上に、大人が住んでいる地域に興味を持つ必要あり

Ex. 子どもの世代ごとに「まちづくりサークル」を新設して、そのバックアップをコンソーシアム化（協議会化）できれば良い

・その土地の歴史を知らずして、まちづくり語れない。

↓

広く浅く、たくさんの事柄を知れば良い。

Ex. まちづくりサークル＝その地域を学ぶ場となれば良いか！

・小さい事から提案→実践 ⇒ 自分事になるのでは？

こんな流れが理想

・誰でも参加できるような
地域のサークルが作れると良いな～

- 飛騨ジモト大学（高山市）
- 大人と子どもの学級会（島根県津和野市）
- 津屋崎ブランケ（福岡県福津市）
- のと未来大学（石川県能登町）

・全国の先進事例も参考にしたい